

新たなグラウンドの完成を祝う

益城中で「グラウンド開き」開催

11月26日、益城中学校^{いのうえこうぞう}（井上幸三校長、630人）で、同校西側に建設中だったグラウンド（6,147㎡）が完成し、全校生徒のほか工事関係者など約50人が出席し、「グラウンド開き」が行われました。

式では、工事経過が報告された後、住永町長が「グラウンドの計画や工事に関わった多くの人に感謝しながら、これまで以上にスポーツに^{ひらいふみひろ}励んでください」とあいさつ。これに対し生徒会長の平井文浩君（3年）が「このグラウンドを大切に使いながら、ますます練習を頑張り、良い成績を残していきたい」とお礼の言葉を述べました。

同グラウンドは、元の運動場が手狭となったため、同校の西隣りに新たに造成したもので、総工費は約7,900万円（用地取得費含む）。テニスコート4面が取れ、ハードルが練習できる110m走路も確保できます。



益城中西側に完成したグラウンド



お礼の言葉を述べる生徒会長の平井君



大空高く舞い上がる風船を見守る子どもたち

11月25日、飯野小学校（竹田泰司校長、91人）で「人権の花」集会在開かれ、



体育館で開かれた集会

花の種を付けた紙風船150個を大空に飛ばしました。人権の花は、22年5月、熊本地方事務局御船支局と御船人権擁護委員協議会（上妻毅会長）から贈られたジニアの種を、子どもたちが種が取れるまで毎日お世話を続けてきました。体育館で開かれた集会の後、子どもたちは、この日のために用意された無公害紙風船を持って運動場へ移動。風船は、糸の先に種を入れた袋が付いており、袋の裏には「この種をひろつ

みんなの思い 届くといいな

飯野小で「人権の花」集会開催

た人は、大事に育てて、また種ができたら風船で飛ばしてください」「友達、家族みんな仲良くなれるように願いを込めました。この種をひろった方は手紙をください」など、子どもたち一人ひとりが人権を大切にす

各地から学校へ届いたよの郵便り

この日、子どもたちが飛ばした風船は、さっそく同日、宮崎県高千穂町の福祉施設に届き、同施設から学校へ写真付きのメールが送られてきました。また数日後、四国の愛媛県からも届いたよのハガキと手紙が1通ずつ届き、子どもたちは大喜び。心温まる出来事となりました。人権を大切に思う思いが、一人でも多くの人に届くといいですね。